

船橋市リハビリセンター
平成29年度事業報告書

指定管理者：医療法人社団輝生会

目次

I	管理の実施状況	1
1	センター基盤の整備	1
	(1) 組織編成	1
	(2) 情報システムの構築	2
	(3) 職員の資質向上	2
2	サービス機能	2
	(1) 職員配置	2
	(2) 提供したサービス	3
3	地域連携・ネットワーキング	4
	(1) 回復期病棟を持つ病院との連携	4
	(2) 医師会との連携	4
	(3) 地域の診療所や介護サービス事業者との連携	4
II	利用状況	6
1	外来患者	6
	(1) 外来患者数	6
	(2) 月別外来患者（延べ人数）内訳	6
	(3) 年齢別・男女別外来患者内訳	8
	(4) 疾患別外来患者内訳	9
	(5) 地域別外来患者内訳	9
2	通所リハビリテーション利用者	11
	(1) 通所リハビリテーション利用者数	11
	(2) 月別通所リハビリテーション利用者（延べ人数）内訳	11
	(3) 年齢別・男女別通所リハビリテーション利用者内訳	12
	(4) 疾患別通所リハビリテーション利用者内訳	12
	(5) 介護度別分類	13
	(6) 地域別通所リハビリテーション利用者内訳	13
3	訪問リハビリテーション利用者	15
	(1) 訪問リハビリテーション利用者数	15
	(2) 月別訪問リハビリテーション利用者（延べ人数）内訳	15
	(3) 年齢別・男女別訪問リハビリテーション利用者内訳	16
	(4) 疾患別訪問リハビリテーション利用者内訳	16
	(5) 介護度別分類	17
	(6) 地域別訪問リハビリテーション利用者内訳	18
4	訪問看護利用者	19
	(1) 訪問看護利用者数	19

(2) 月別訪問看護利用者（延べ人数）内訳	19
(3) 年齢別・男女別訪問看護利用者内訳	20
(4) 疾患別訪問看護利用者内訳	20
(5) 介護度別分類	21
(6) 地域別訪問看護利用者内訳	22
5 地域リハビリテーション拠点事業	23
6 リハビリ事業	23
(1) パワーリハビリ教室	23
(2) パワーリハフォロー	24
(3) プールリハビリ	24
III 収支状況	26
IV 中期目標の達成状況及び中期行動計画の実施状況報告	28
(1) 目標1 利用者アンケートによる患者満足度（外来患者について）	28
(2) 目標2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の 達成率	30
(3) 目標3 通所リハビリ利用者について（介護福祉士の占める割合）	32
(4) 目標4 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上の者の占める割 合100分の30以上	33
(5) 目標5 利用者アンケートによる患者満足度（通所リハビリ利用者について）	34
(6) 目標6 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の 達成率	36
(7) 目標7 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、 勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上	38
(8) 目標8 利用者アンケートによる患者満足度（訪問リハビリ利用者について）	39
(9) 目標9 利用者アンケートによる患者満足度（訪問看護利用者について）	41
(10) 目標10 利用者アンケートによる患者満足度（リハビリ事業利用者について）	42
(11) 目標11 財務内容の改善に関する事項（診療所）	44
(12) 目標12 財務内容の改善に関する事項（訪問看護）	46
(13) 目標13 地域リハビリテーション拠点事業	47

（資料）

資料1 組織図	資料7 訪問看護アンケート
資料2 センター内外の研修・学会	資料8 リハビリ事業アンケート
資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績	資料9 地域リハビリテーション拠点事業 アンケート
資料4 外来患者アンケート	
資料5 通所リハビリテーションアンケート	
資料6 訪問リハビリテーションアンケート	

I 管理の実施状況 管理の実施状況

1 センター基盤の整備

(1) 組織編成

リハビリセンターの組織編成は、センター長を補佐する役割として、副センター長を配置した。以下、クリニック部門、サポート部門、船橋市委託事業部門の3つのセクションを配置し、それぞれの部門においてセンターの基本となるクリニック事業（外来リハ・通所リハ・訪問リハ）、リハビリ事業（パワーリハビリ教室・フォローアップ・プールリハビリ）、地域リハビリテーション拠点事業、職員の資質向上、事務の業務を担当し、医療安全、個人情報保護等センターを運営する上での個別の重要事項については、専門の委員会が担当する体制とした。各事業と主な委員会の役割は次のとおり。（資料1 組織図）

A クリニック事業

クリニックは、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士が所属し、外来・通所・訪問リハビリテーションの患者の診療及びリハビリテーションを担当した。

B 訪問看護

訪問看護は看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が所属し、訪問看護ステーションの利用者の看護及びリハビリテーションを担当した。

C リハビリ事業（パワーリハビリ教室・フォローアップ・プールリハビリ）

リハビリ事業は、理学療法士、健康運動指導士を配置し、利用者の筋力マシンを使用するトレーニングの相談やアドバイス、プールリハビリの水中歩行訓練等を担当した。

D 地域リハビリテーション拠点事業

地域リハビリテーション拠点事業は、ソーシャルワーカーを配置し、リハビリについての啓発活動、リハビリ関係者の育成、医療及び介護の連携強化、リハビリの実態把握、リハビリの総合相談を担当した。

E サポート部

サポート部は、事務職が所属し、医療事務、総務・人事、施設管理、患者サービスの向上及び、職員の働きやすい環境作りを担当した。

F 主な委員会の担当事項

①医療安全委員会及び感染対策委員会

医療安全委員会は、センター内における事故を防止し、安全かつ適切に業務遂行できる体制を確立した。センター内で起こる「ヒヤリハット」報告に対して検討し、事故を未然に防ぐべく対策を提案した。感染対策委員会は、センター内における細菌、微生物、ウイルス等の感染防止対策を推進し、院内衛生管理の万全を期した。感染予防に対する意識を高めるため、手洗いキ

ットを使用し、自らの手洗い方法を見直す機会を設けた。ノロウイルス感染対策として、嘔吐があった場合の対応について、動画を交えた勉強会を実施した。

②個人情報保護委員会及び診療情報開示検討委員会

個人情報保護委員会は、患者等の個人情報の取り扱い・保護・管理・委託・苦情・相談等を審議した。診療情報開示検討委員会は、診療情報の提供・開示の具体的方策及び、実施要綱などの運営上の問題点等を協議するとともに、センター長からの諮問により開示申請者の適否・開示情報の範囲、開示の可否について審査する体制を整えている。

③サービス向上委員会

患者のアメニティーの向上・苦情対応は、サービス向上委員会が担当した。苦情対応として、御意見箱を設置し、患者等の苦情に対応する体制を整えた。生花の配置、患者満足度調査等を行った。接遇向上を目指して、各スタッフの接遇に対する意識を共有するため、朝礼の際にスピーチする機会を設けた。また、センター運営の透明性を確保するため、センター内の情報を公開して、事業内容を刊行物にて提供した。

(2) 情報システムの構築

リハビリセンタークリニックで行う診療はチームで行ない、電子カルテシステムを導入し、患者の状況・治療の目標等の患者情報を共有している。この電子カルテにより、患者情報が一元化され、チームスタッフが患者とその家族との面談の際に必要な情報提供にも寄与した。

(3) 職員の資質向上

効果的なリハビリテーションの提供には、患者本人から機能回復の意欲を引き出し高いモチベーション（動機付け）をもって主体的にリハビリテーションを行うことができる環境づくりが重要である。その中で、職員の対応は最も重要となる。

このことから、職員には当法人の基本理念、診療方針、患者の基本的な権利等を理解し行動できるよう研修を行った。また、当院が提供するリハビリテーションの理解を深めるため、病院の概要、診療システム、各部門の業務体制についても研修を行った。

職員には全体会議や朝のミーティングを通じて、社会人や大人としての礼儀作法・身だしなみ、言葉遣い等の接遇に関する研修を行うなど意識付けを行った。

(資料2 センター内外の研修・学会)

2 サービス機能

(1) 職員配置

区分	平成29年度
センター長兼院長兼医師	1

副センター長	1
チームマネジャー（看護師）	1
チームマネジャー（作業療法士）	1
看護師	4（1）
ケアワーカー	3（1）
理学療法士	13（2）
作業療法士	5
言語聴覚士	2
ソーシャルワーカー	1
健康運動指導士	2（1）
サポート部（事務）	5（1）
運転手	8（8）
総計	47（14）

（）内非常勤職員数

(2) 提供したサービス

ア) 外来リハビリテーション

通院による外来リハビリテーションを提供した。混雑した場合には個別リハビリテーションが十分に提供できなくなることからサービスの提供は予約制とした。また、リハビリテーション科の医師の診察等には一定以上の時間を要することから初回受付も予約制とした。

イ) 通所リハビリテーション

利用者が可能な限り居宅においてその能力に応じ、生活機能の維持・向上を積極的に図り、要支援・要介護状態の予防及びその重症化の予防、軽減ができるよう介護（予防）通所リハビリテーションサービスを提供した。対象は要支援1・2もしくは、要介護1から5の方とし、個別リハ（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）の実施に加えて自主トレーニングを行う時間を設け、1回およそ70分で行った。

ウ) 訪問リハビリテーション

利用者の心身の特性を踏まえて、全体的な日常生活活動の維持、回復を図るとともに、生活の質の確保を重視した在宅療養が継続できるように訪問リハビリテーションを通じた支援を行った。サービス提供に当たっては、ケアマネジャーを始め、関係自治体、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図った。

エ) 訪問看護ステーション

利用者の心身の特性を踏まえて、個々に応じたケアを実施することで心身の活力を維持し、より安全な在宅療養生活を送れるよう支援した。また、サービスの特性から地域におけるニーズとして、24時間・緊急時への対応が求められていることから、利用者が24時間安心して生活を送れるように24時間

の緊急時の対応を行った。サービスの提供に当たっては、ケアマネジャーを始め、関係自治体、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図った。

オ) 地域リハビリテーション拠点事業

地域リハビリテーションの普及を図る目的から、リハビリ関係者向け講演会として研究大会（年2回）、リハビリ関係者向け研修会として介護職員向け勉強会（年10回）・地区勉強会（年3回）・摂食栄養サポート勉強会（年2回）の計15回を実施し、市民向け講演会（年2回）、市民向け研修会（年2回）を実施したほか、センターパンフレット・地域リハビリ推進用リーフレット・センター刊行物の作成及び配布、ホームページ運営、生活期リハに関する調査研究報告（3回）を行った。

（資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績）

カ) リハビリ事業

増加する事業利用者の安全確保のため、予約システムを導入し、下記事業を実施した。

① パワーリハビリ教室

市内の身体機能の低下した高齢者等に対し、要介護状態等の予防や軽減、また、自立した生活をできるだけ実現すること等を主な目的として実施した。

② パワーリハビリフォローアップ

パワーリハビリ教室終了後の健康維持・体力作り、仲間との交流などを主な目的として実施した。

③ プールリハビリ

水がもつ特性を活かし、下半身への負担を軽減しながら高齢者の体力及び筋力の維持を目的として実施した。

3 地域連携・ネットワーキング

(1) 回復期病棟を持つ病院との連携

回復期病棟を持つ近隣の医療機関に出向き、必要な市民が円滑にリハビリテーションサービスを受けられるよう情報交換を行った。

(2) 医師会との連携

クリニックやリハビリ事業を利用する患者・利用者を通じてかかりつけ医との連携を図った。リハビリセンター刊行物を発行し、医師会郵送物に同封してもらい、会員にリハビリテーション及びリハビリセンターの周知を図った。

(3) 地域の診療所や介護サービス事業者との連携

① 近隣医療機関に出向き、情報交換を行った。

② 「船橋在宅医療ひまわりネットワーク 地域リハ推進委員会」と連携し、地域リハビリテーション拠点事業の実施に反映させた。

- ③ 「船橋在宅医療ひまわりネットワーク役員会」に出席し、関係団体として協力した。また、S W及び看護師が「顔の見える連携作り委員会」に参加し、「船橋市における在宅医療・介護連携の心得」説明会で説明するなど会の運営に協力した。
- ④ 船橋市在宅医療支援拠点ふなぼーと運営連絡調整会議に参加し、運営に協力を行った。
- ⑤ 船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会に参加し、会員である市内外のS Wと情報交換を行った。
- ⑥ 「船橋市通所リハビリテーション連絡会」と連携を図り、会の運営に協力した。
- ⑦ 船橋市全病院長会議に参加し、連携を図った。

リハビリテーション総合相談件数

(重複あり)

	センター事業に関する相談			センター以外に関する相談※	訪問看護に関する相談
	クリニック事業に関する相談	リハビリ事業に関する相談	その他		
平成29年4月	44	3	0	3	0
平成29年5月	34	5	0	2	0
平成29年6月	36	2	1	2	0
平成29年7月	26	2	0	4	0
平成29年8月	31	0	0	4	0
平成29年9月	36	3	0	3	0
平成29年10月	46	1	0	4	0
平成29年11月	21	5	0	5	0
平成29年12月	28	8	0	3	0
平成30年1月	19	0	0	5	0
平成30年2月	32	1	0	3	0
平成30年3月	40	1	0	1	0
計	393	31	1	39	0

※センター以外に関する相談の内容

- ・老人保健施設入所中のリハビリについて
- ・急性期病院入院中の患者家族より、退院後のリハビリについて
- ・認知機能が低下した方の運動について
- ・回復期リハ病棟入院中の家族から、リハビリの内容について
- ・回復期リハ病棟入院中の家族から、退院後の生活の心配について
- ・他院外来リハ通院中の方から、リハビリの頻度を増やしたいという希望
- ・市内在住の方で他市急性期病院入院中の家族から、退院後のリハビリについて
- ・市内西部在住の方から通所リハの情報提供希望
- ・本人より、物忘れが出てきたが、何か手立てはないか

II 利用状況

船橋市リハビリセンターにおける平成29年度の利用実績は以下の通りである。

1 外来患者（一般診療・リハビリテーション）

(1) 外来リハビリテーション患者数 (単位：人)

	実患者数	延べ患者数
計	100	3,725

(2) 月別外来患者（延べ人数）内訳

診療日数	257
------	-----

①外来リハビリテーション実績 (単位：人)

区分	新規（初診）	再診	計
平成29年4月	11	278	289
平成29年5月	6	361	367
平成29年6月	6	321	327
平成29年7月	2	304	306
平成29年8月	4	277	281
平成29年9月	3	285	288
平成29年10月	5	307	312
平成29年11月	3	319	322
平成29年12月	7	303	310
平成30年1月	2	298	300
平成30年2月	4	281	285
平成30年3月	4	334	338
合計	57	3,668	3,725
1日平均患者	0.2	14.3	14.5

②一般診療実績（通所リハビリテーション利用者への診察） (単位：人)

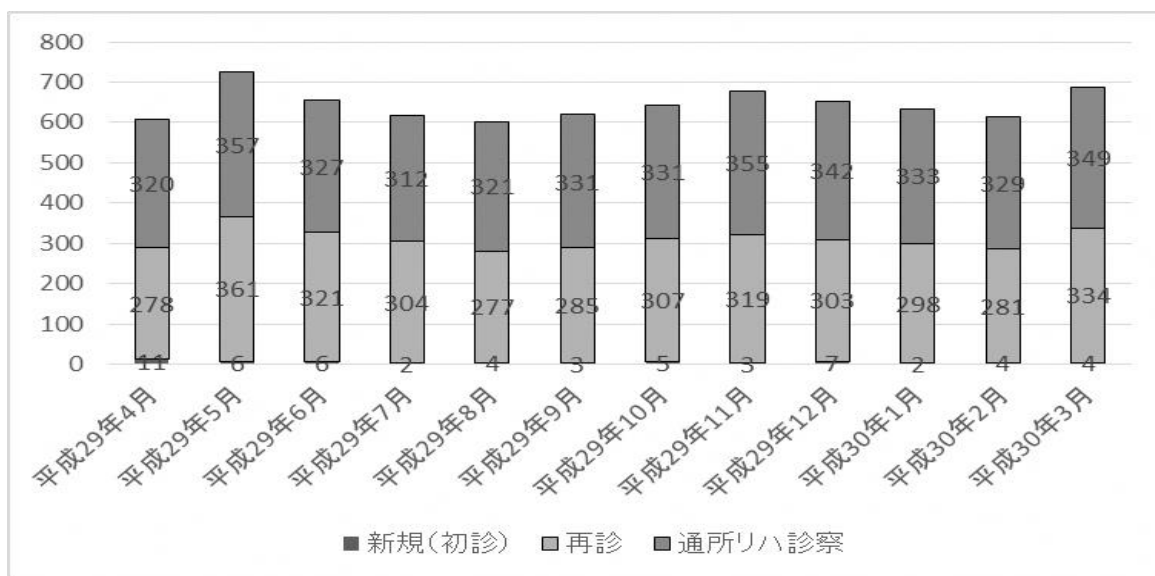
区分	通所リハ診察
平成29年4月	320
平成29年5月	357
平成29年6月	327
平成29年7月	312
平成29年8月	321
平成29年9月	331
平成29年10月	331
平成29年11月	355
平成29年12月	342
平成30年1月	333

平成30年2月	329
平成30年3月	349
合計	4,007
1日平均患者	15.6

③外来診療実績（①+②）

（単位：人）

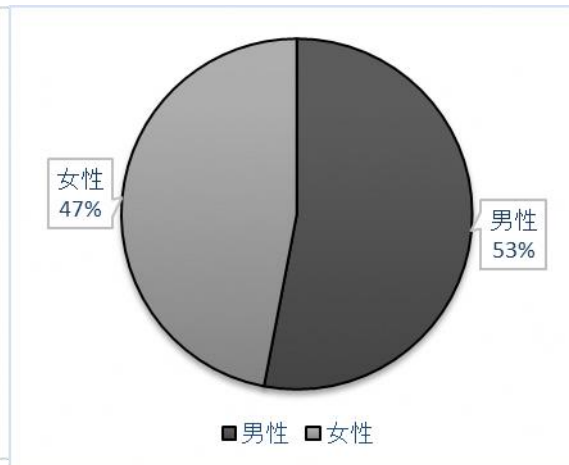
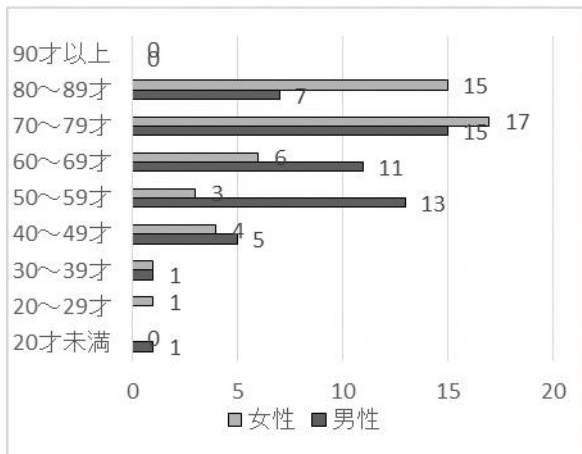
区分	新規（初診）	再診	通所リハ診察	計
平成29年4月	11	278	320	609
平成29年5月	6	361	357	724
平成29年6月	6	321	327	654
平成29年7月	2	304	312	618
平成29年8月	4	277	321	602
平成29年9月	3	285	331	619
平成29年10月	5	307	331	643
平成29年11月	3	319	355	677
平成29年12月	7	303	342	652
平成30年1月	2	298	333	633
平成30年2月	4	281	329	614
平成30年3月	4	334	349	687
合計	57	3,668	4,007	7,732
1日平均患者	0.2	14.3	15.6	30.1



(3) 外来リハビリテーション年齢別・男女別外来患者内訳

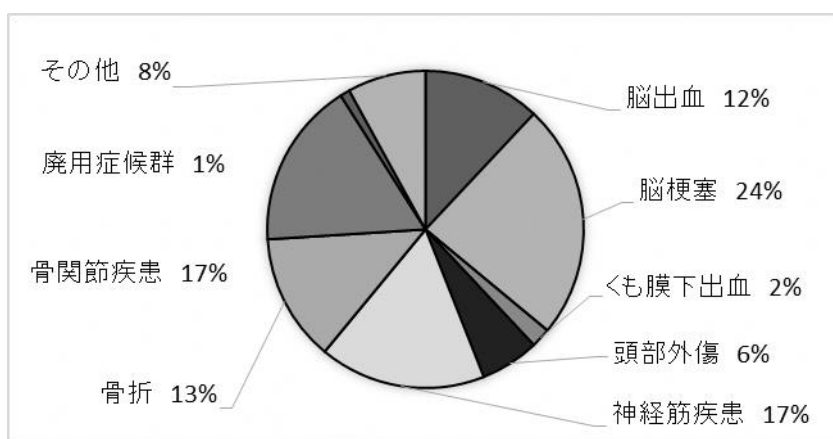
(単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	1	0	1	1.0%
20～29才	0	1	1	1.0%
30～39才	1	1	2	2.0%
40～49才	5	4	9	9.0%
50～59才	13	3	16	16.0%
60～69才	11	6	17	17.0%
70～79才	15	17	32	32.0%
80～89才	7	15	22	22.0%
90才以上	0	0	0	0.0%
合計	53	47	100	100%
平均年齢	63.9	71.1	67.3	



(4) 外来リハビリテーション疾患別外来患者内訳

疾患名	患者数	構成割合%
脳出血	12	12.0%
脳梗塞	24	24.0%
くも膜下出血	2	2.0%
頭部外傷	6	6.0%
神経筋疾患	17	17.0%
骨折	13	13.0%
骨関節疾患	17	17.0%
廃用症候群	1	1.0%
その他	8	8.0%
合計	100	100%



(5) 外来リハビリテーション地域別外来患者内訳

地域	患者数	構成割合%
船橋市前原	17	17.0%
船橋市飯山満町	13	13.0%
船橋市芝山	4	4.0%
船橋市滝台	4	4.0%
船橋市海神	3	3.0%
船橋市咲が丘	3	3.0%
船橋市三山	3	3.0%
船橋市中野木	3	3.0%
船橋市二宮	3	3.0%
船橋市金杉	2	2.0%
船橋市三咲	2	2.0%
船橋市習志野	2	2.0%
船橋市習志野台	2	2.0%
船橋市坪井東	2	2.0%
船橋市二和東	2	2.0%
船橋市八木が谷	2	2.0%
船橋市薬円台	2	2.0%
船橋市旭町	1	1.0%
船橋市印内	1	1.0%
船橋市夏見	1	1.0%
船橋市高根台	1	1.0%
船橋市高野台	1	1.0%
船橋市駿河台	1	1.0%
船橋市上山町	1	1.0%
船橋市新高根	1	1.0%
船橋市西習志野	1	1.0%
船橋市西船	1	1.0%
船橋市大穴北	1	1.0%
船橋市田喜野井	1	1.0%
船橋市東船橋	1	1.0%
船橋市藤原	1	1.0%
船橋市湊町	1	1.0%
船橋市緑台	1	1.0%
その他県内	15	15.0%
合計	100	100%

2 通所リハビリテーション利用者数

(1) 通所リハビリテーション利用者数 (単位：人)

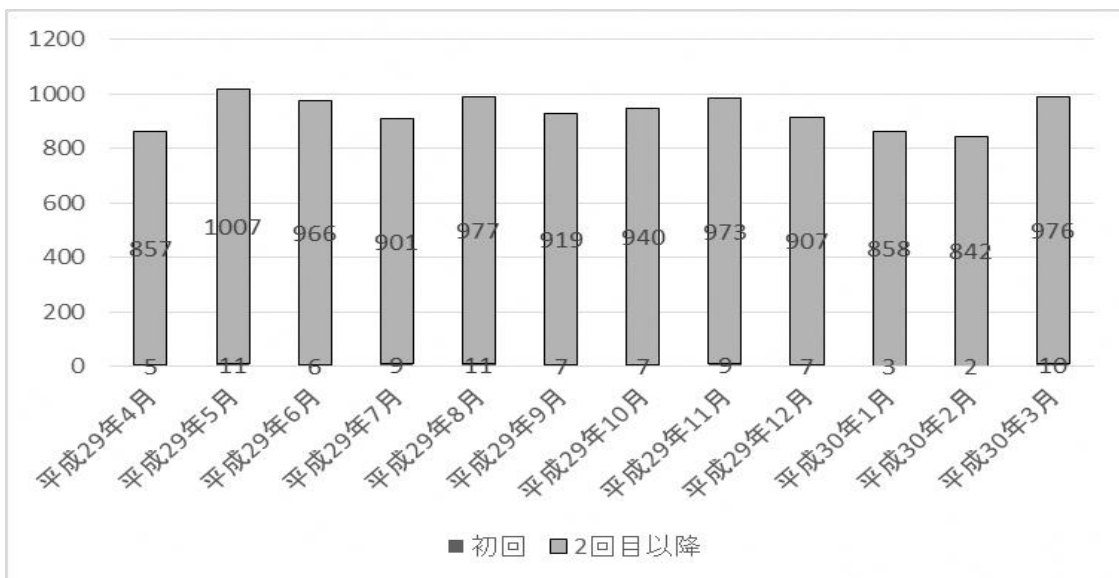
	実利用者数	延べ利用者数
計	239	11,210

(2) 月別通所リハビリテーション実績（延べ人数）内訳

診療日数	257
------	-----

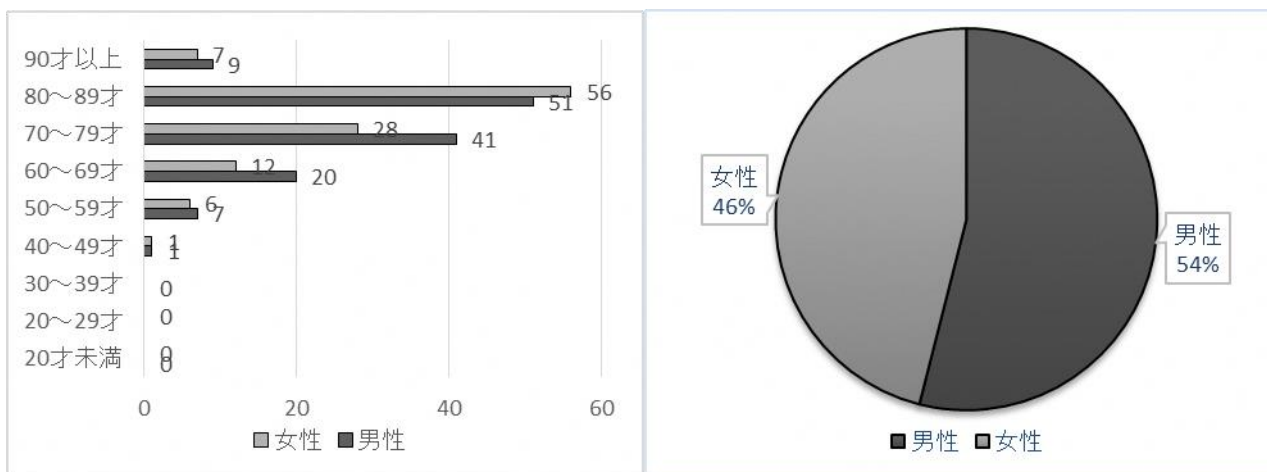
(単位：人)

区分	初回	2回目以降	計
平成29年4月	5	857	862
平成29年5月	11	1007	1018
平成29年6月	6	966	972
平成29年7月	9	901	910
平成29年8月	11	977	988
平成29年9月	7	919	926
平成29年10月	7	940	947
平成29年11月	9	973	982
平成29年12月	7	907	914
平成30年1月	3	858	861
平成30年2月	2	842	844
平成30年3月	10	976	986
合計	87	11,123	11,210
1日平均患者	0.3	43.3	43.6



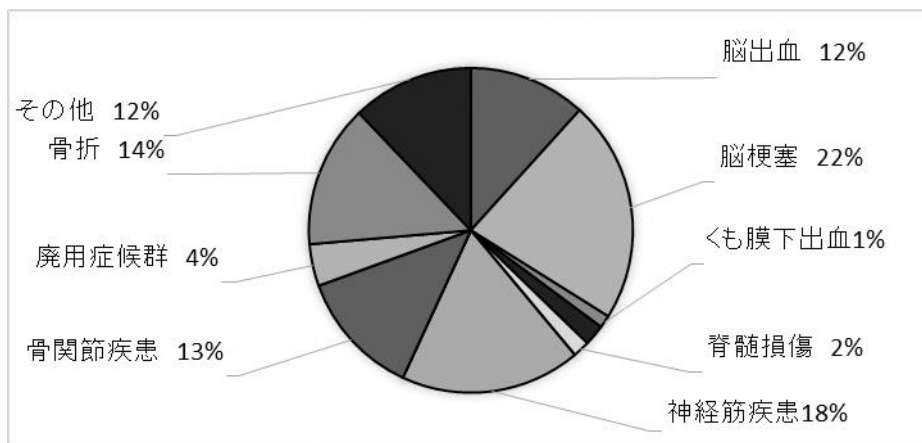
(3) 年齢別・男女別通所リハビリテーション利用者内訳 (単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	0	0	0	0.0%
30～39才	0	0	0	0.0%
40～49才	1	1	2	0.8%
50～59才	7	6	13	5.4%
60～69才	20	12	32	13.4%
70～79才	41	28	69	28.9%
80～89才	51	56	107	44.8%
90才以上	9	7	16	6.7%
合計	129	110	239	100%
平均年齢	76.8	78.8	77.8	



(4) 疾患別通所リハビリテーション利用者内訳

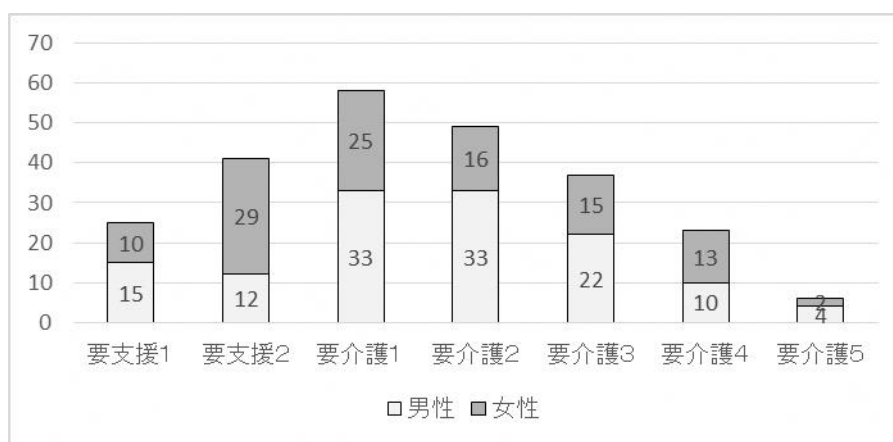
疾患名	利用者数	構成割合
脳出血	28	11.7%
脳梗塞	53	22.2%
くも膜下出血	3	1.3%
頭部外傷	5	2.1%
脊髄損傷	4	1.7%
神経筋疾患	43	18.0%
脳腫瘍	0	0.0%
骨関節疾患	30	12.6%
廃用症候群	10	4.2%
骨折	34	14.1%
その他	29	12.1%
合計	239	100%



(5) 介護度別分類

(単位：人)

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	15	10	25	10.5%
要支援 2	12	29	41	17.1%
要介護 1	33	25	58	24.3%
要介護 2	33	16	49	20.5%
要介護 3	22	15	37	15.5%
要介護 4	10	13	23	9.6%
要介護 5	4	2	6	2.5%
合計	129	110	239	100%



(6) 地域別通所リハビリテーション利用者内訳

地域	患者数	構成割合%
船橋市前原	77	32.2%
船橋市飯山満町	49	20.5%
船橋市芝山	19	8.0%
船橋市二宮	14	5.9%
船橋市薬円台	12	5.1%
船橋市高根台	10	4.2%
船橋市田喜野井	9	3.8%
船橋市三山	8	3.4%
船橋市中野木	7	2.9%
船橋市習志野	5	2.1%
船橋市習志野台	3	1.3%
船橋市駿河台	3	1.3%
船橋市坪井東	3	1.3%
船橋市滝台町	2	0.8%
船橋市印内	1	0.4%
船橋市夏見	1	0.4%
船橋市海神	1	0.4%
船橋市海神町	1	0.4%
船橋市金杉	1	0.4%
船橋市七林町	1	0.4%
船橋市若松	1	0.4%
船橋市松が丘	1	0.4%
船橋市新高根	1	0.4%
船橋市西習志野	1	0.4%
船橋市大穴南	1	0.4%
船橋市東船橋	1	0.4%
船橋市二和東	1	0.4%
船橋市浜町	1	0.4%
船橋市豊富町	1	0.4%
船橋市本町	1	0.4%
船橋市湊町	1	0.4%
その他県内	1	0.4%
合計	239	100%

3 訪問リハビリテーション利用者

(1) 訪問リハビリテーション利用者数

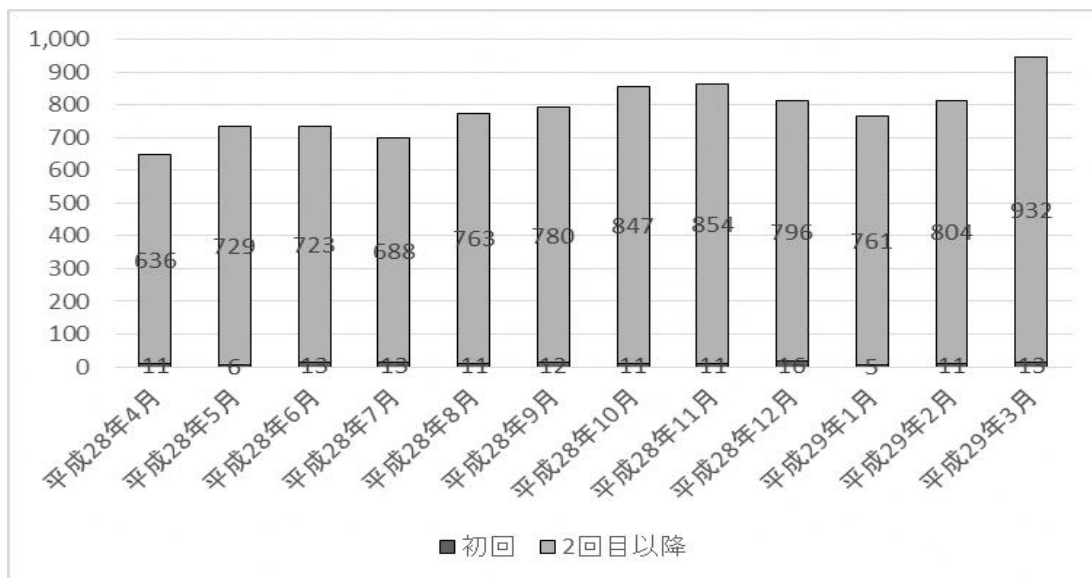
(単位：人)

	実利用者数	延べ利用者数
計	179	9,446

(2) 月別訪問リハビリテーション実績（延べ人数）内訳

診療日数	257
------	-----

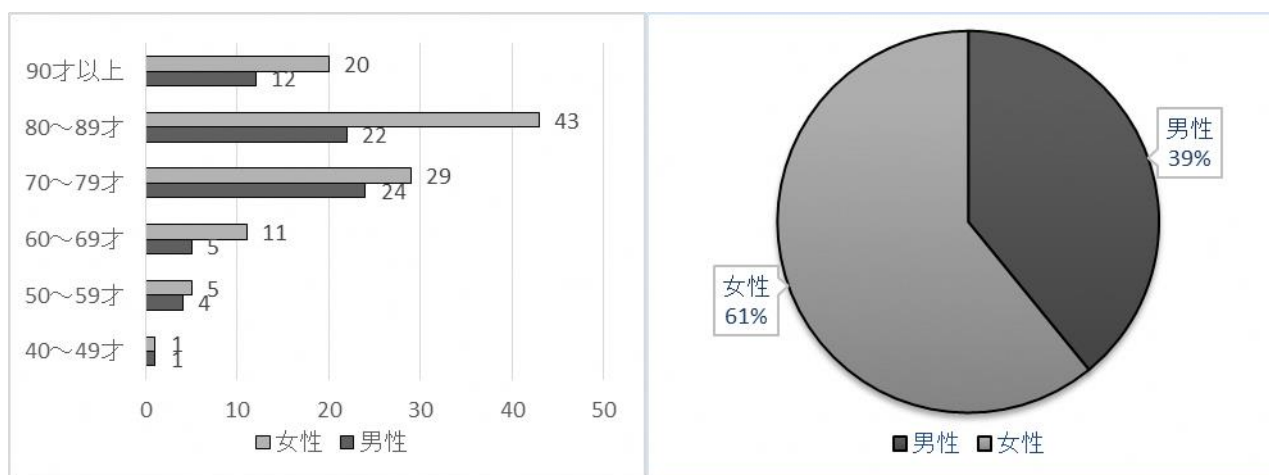
区分	初回	2回目以降	計
平成29年4月	11	636	647
平成29年5月	6	729	735
平成29年6月	13	723	736
平成29年7月	13	688	701
平成29年8月	11	763	774
平成29年9月	12	780	792
平成29年10月	11	847	858
平成29年11月	11	854	865
平成29年12月	16	796	812
平成30年1月	5	761	766
平成30年2月	11	804	815
平成30年3月	13	932	945
合計	133	9,313	9,446
1日平均利用者	0.5	36.2	36.8



(3) 年齢別・男女別訪問リハビリテーション利用者内訳

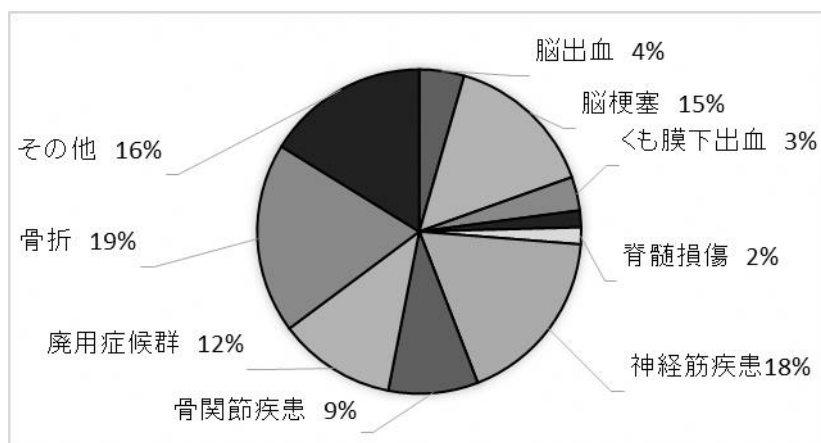
(単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	1	0	1	0.6%
30～39才	1	0	1	0.6%
40～49才	1	1	2	1.1%
50～59才	4	5	9	5.0%
60～69才	5	11	16	8.9%
70～79才	24	29	53	29.6%
80～89才	22	43	65	36.3%
90才以上	12	20	32	17.9%
合計	70	109	179	100.0%
平均年齢	77.3	80.1	79.0	



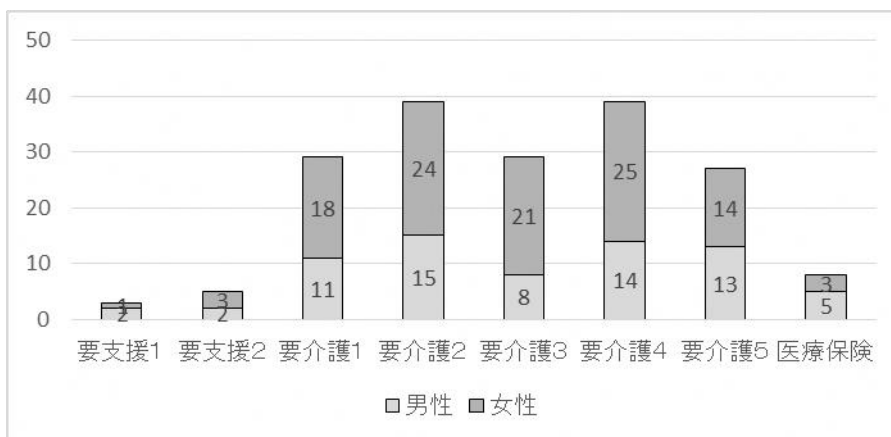
(4) 疾患別訪問リハビリテーション利用者内訳

疾患名	利用者数	構成割合
脳出血	8	4.5%
脳梗塞	27	15.1%
くも膜下出血	6	3.4%
頭部外傷	3	1.7%
脊髄損傷	3	1.7%
神経筋疾患	32	17.9%
脳腫瘍	0	0.0%
骨関節疾患	16	8.9%
廃用症候群	21	11.7%
骨折	34	19.0%
その他	29	16.1%
合計	179	100%



(5) 介護度別分類

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	2	1	3	1.7%
要支援 2	2	3	5	2.8%
要介護 1	11	18	29	16.2%
要介護 2	15	24	39	21.8%
要介護 3	8	21	29	16.2%
要介護 4	14	25	39	21.8%
要介護 5	13	14	27	15.1%
医療保険	5	3	8	4.4%
合計	70	109	179	100%



(6) 地域別訪問リハビリテーション利用者内訳

地域	利用者数	構成割合
船橋市前原	30	16.7%
船橋市習志野台	21	11.7%
船橋市芝山	15	8.3%
船橋市飯山満町	15	8.3%

船橋市薬円台	14	7.8%
船橋市三山	13	7.3%
船橋市高根台	11	6.1%
船橋市田喜野井	11	6.1%
船橋市松が丘	7	3.9%
船橋市習志野	6	3.4%
船橋市西習志野	5	2.8%
船橋市二宮	5	2.8%
船橋市東船橋	3	1.7%
船橋市新高根	2	1.1%
船橋市中野木	2	1.1%
船橋市北本町	2	1.1%
船橋市緑台	2	1.1%
船橋市夏見	1	0.6%
船橋市宮本	1	0.6%
船橋市七林町	1	0.6%
船橋市若松	1	0.6%
船橋市駿河台	1	0.6%
船橋市大穴北	1	0.6%
船橋市滝台	1	0.6%
船橋市坪井東	1	0.6%
船橋市豊富町	1	0.6%
その他県内	6	3.3%
合計	179	100%

4 訪問看護利用者

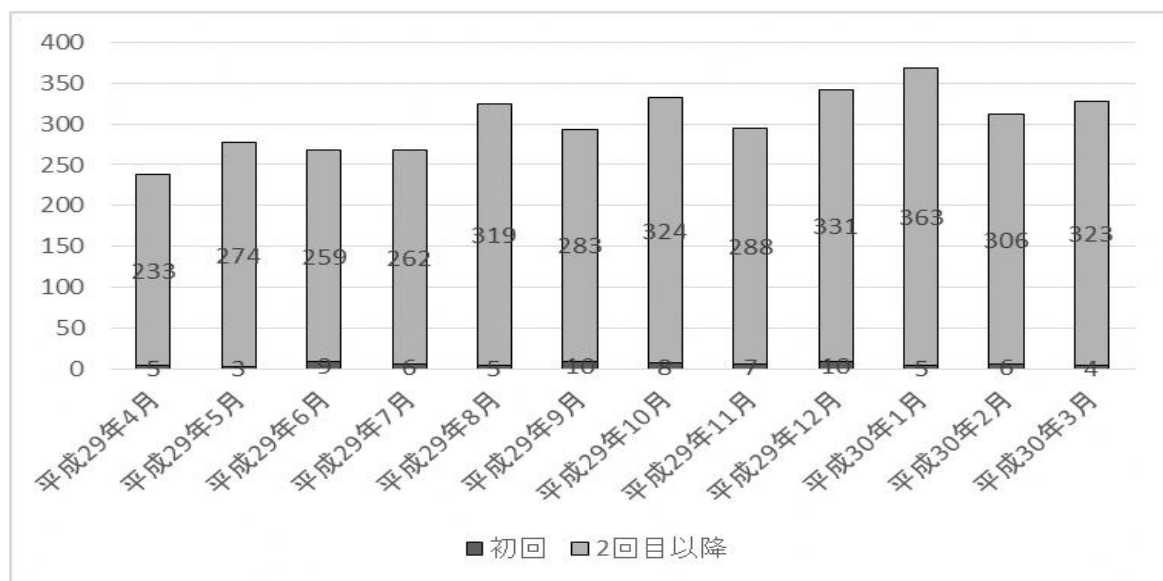
(1) 訪問看護利用者数

	実利用者数	延べ利用者数
計	116	3,643

(2) 月別訪問看護利用者（延べ人数）内訳

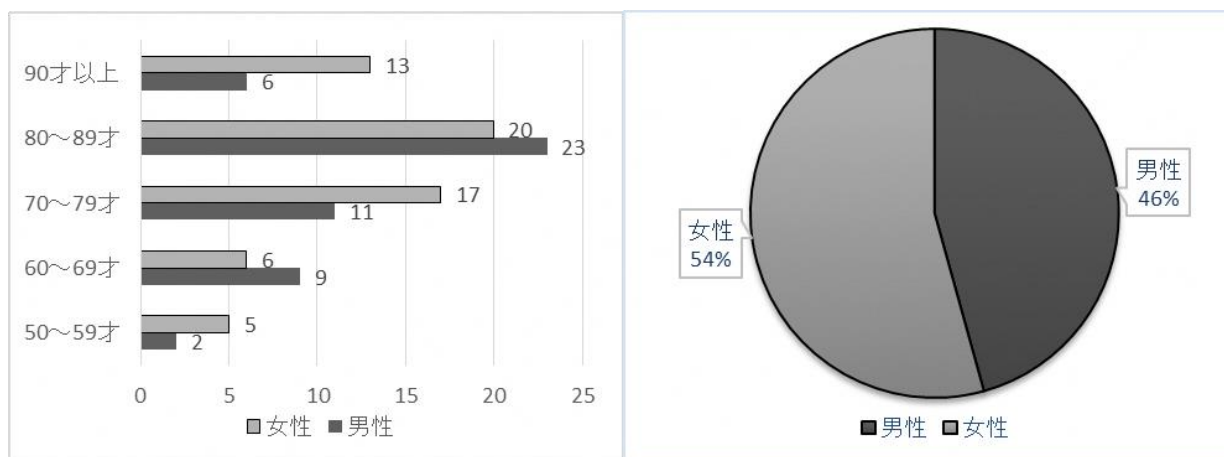
診療日数	257
------	-----

区分	初回	2回目以降	計
平成29年4月	5	233	238
平成29年5月	3	274	277
平成29年6月	9	259	268
平成29年7月	6	262	268
平成29年8月	5	319	324
平成29年9月	10	283	293
平成29年10月	8	324	332
平成29年11月	7	288	295
平成29年12月	10	331	341
平成30年1月	5	363	368
平成30年2月	6	306	312
平成30年3月	4	323	327
合計	78	3,565	3,643
1日平均利用者	0.3	13.9	14.2



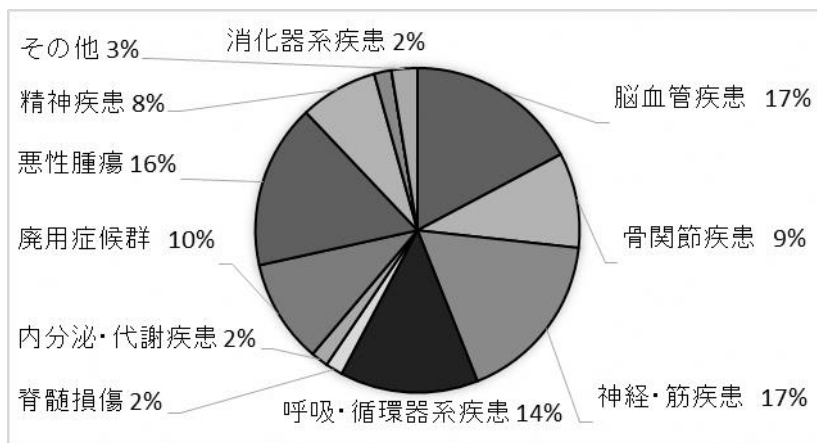
(3) 年齢別・男女別訪問看護利用者内訳

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	0	1	1	0.9%
30～39才	2	1	3	2.6%
40～49才	0	0	0	0.0%
50～59才	2	5	7	6.0%
60～69才	9	6	15	12.9%
70～79才	11	17	28	24.1%
80～89才	23	20	43	37.1%
90才以上	6	13	19	16.4%
合計	53	63	116	100%
平均年齢	77.6	78.5	78.1	



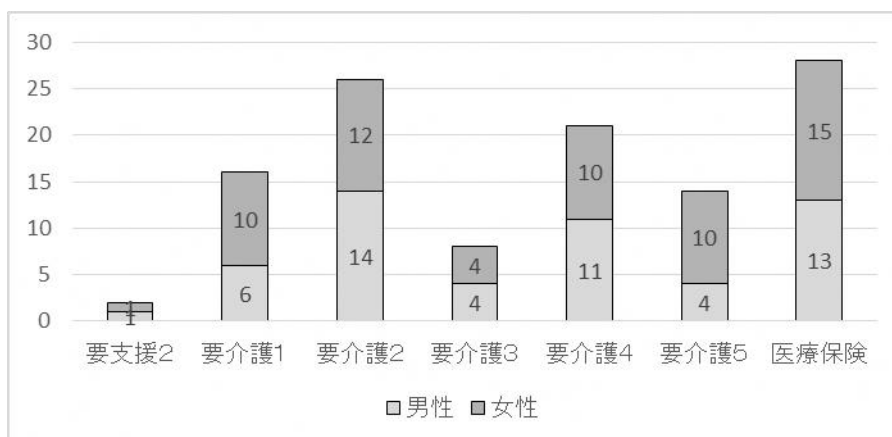
(4) 疾患別訪問看護利用者内訳

疾患名	利用者数	構成割合%
脳血管疾患	20	17.2%
骨関節疾患	11	9.5%
神経・筋疾患	20	17.2%
呼吸・循環器系疾患	16	13.8%
脊髄損傷	2	1.7%
内分泌・代謝疾患	2	1.7%
廃用症候群	12	10.3%
悪性腫瘍	19	16.4%
精神疾患	9	7.8%
消化器系疾患	2	1.7%
内科系疾患	0	0.0%
泌尿器系疾患	0	0.0%
その他	3	2.7%
合計	116	100%



(5) 介護度別分類

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	0	1	1	0.9%
要支援 2	1	1	2	1.7%
要介護 1	6	10	16	13.8%
要介護 2	14	12	26	22.4%
要介護 3	4	4	8	6.9%
要介護 4	11	10	21	18.1%
要介護 5	4	10	14	12.1%
医療保険	13	15	28	24.1%
合計	53	63	116	100%



(6) 地域別訪問看護利用者内訳

地域	患者数	構成割合%
船橋市前原	15	12.8%
船橋市飯山満町	13	11.2%
船橋市夏見	13	11.2%
船橋市芝山	7	6.0%
船橋市習志野台	7	6.0%
船橋市二宮	7	6.0%
船橋市高根台	6	5.1%
船橋市薬円台	6	5.1%
船橋市金杉	3	2.6%
船橋市中野木	3	2.6%
船橋市坪井東	3	2.6%
船橋市浜町	3	2.6%
船橋市夏見台	2	1.7%
船橋市金杉台	2	1.7%
船橋市三山	2	1.7%
船橋市松が丘	2	1.7%
船橋市新高根	2	1.7%
船橋市滝台	2	1.7%
船橋市本町	2	1.7%
船橋市緑台	2	1.7%
船橋市宮本	1	0.9%
船橋市金堀町	1	0.9%
船橋市高根町	1	0.9%
船橋市三咲	1	0.9%
船橋市七林町	1	0.9%
船橋市若松	1	0.9%
船橋市習志野	1	0.9%
船橋市駿河台	1	0.9%
船橋市西習志野	1	0.9%
船橋市大穴南	1	0.9%
船橋市大穴北	1	0.9%
船橋市田喜野井	1	0.9%
船橋市東船橋	1	0.9%
その他県内	1	0.9%
合計	116	100%

5 地域リハビリテーション拠点事業

平成29年度の地域リハビリテーション拠点事業実績は別添資料の通り実施した。開催した内容としては、リハビリ関係者向け講演会 計2回、リハビリ関係者向け研修会 計15回、市民向け講演会 計2回、市民向け研修会 計2回を実施し、開催回数は合計21回実施し参加者の総数は1,439名であった。

(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)

6 リハビリ事業

(1) パワーリハビリ教室

①パワーリハビリ教室 利用者数

	延べ利用者数
計	1,187

②月別パワーリハビリ教室（延べ人数）内訳

実日数	88
-----	----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
平成29年4月	104	14
平成29年5月	103	14
平成29年6月	80	14
平成29年7月	109	14
平成29年8月	123	14
平成29年9月	58	14
平成29年10月	127	15
平成29年11月	109	15
平成29年12月	72	15
平成30年1月	95	15
平成30年2月	112	15
平成30年3月	95	15
合計	1,187	—
1日平均利用者	13.5	—

(2) パワーリハビリフォローアップ

①パワーリハビリフォローアップ 利用者数

	延べ利用者数
計	10,284

②月別パワーリハビリフォロー（延べ人数）内訳

実日数	245
-----	-----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
平成29年4月	846	166
平成29年5月	842	166
平成29年6月	979	166
平成29年7月	902	178
平成29年8月	867	173
平成29年9月	811	173
平成29年10月	859	186
平成29年11月	830	183
平成29年12月	857	180
平成30年1月	816	194
平成30年2月	817	192
平成30年3月	858	189
合計	10,284	—
1日平均利用者	42.0	—

(3) プールリハビリ

①プールリハビリ 利用者数

	延べ利用者数
計	3,843

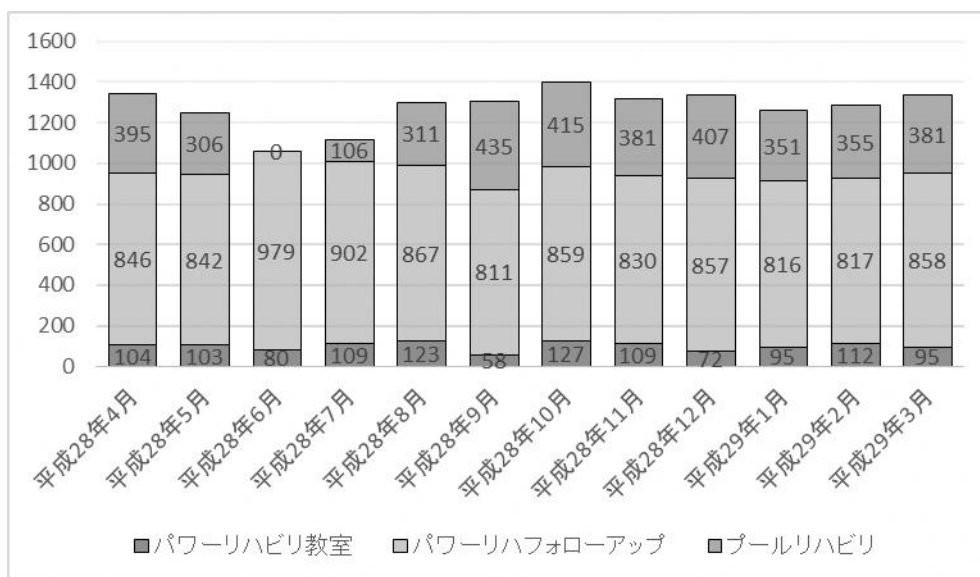
②月別プールリハビリ（延べ人数）内訳

実日数	214
-----	-----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
平成29年4月	395	128
平成29年5月	306	130
平成29年6月	0	124
平成29年7月	106	124
平成29年8月	311	128

平成29年9月	435	136
平成29年10月	415	135
平成29年11月	381	128
平成29年12月	407	129
平成30年1月	351	124
平成30年2月	355	125
平成30年3月	381	126
合計	3,843	—
1日平均利用者	18.0	—



Ⅲ 収支状況

平成29年度における船橋市リハビリセンターの収支は以下の通りである。

単位：千円

		診療所	訪問看護	リハビリ事業	地域リハ 拠点事業	施設管理	合計
医 業 収 益	利 用 料	0	0	3,829	0	0	3,829
	指 定 管 理 委 託 料	0	0	32,333	0	0	32,333
	医 療 ・ 外 来 収 益	30,047	14,894	0	0	0	44,941
	介 護 ・ 外 来 収 益	124,862	17,433	0	0	0	142,295
	受 託 検 査 ・ 施 設 利 用 収 益	0	0	0	0	0	0
	訪 問 看 護 収 益	0	0	0	0	0	0
	そ の 他 医 業 収 益	339	437	0	10,894	23,875	35,545
計	155,248	32,764	36,162	10,894	23,875	258,942	
	保 険 等 査 定 減	-28	0	0	0	0	-28
	計	155,220	32,764	36,162	10,894	23,875	258,914
	医 業 費 用	168,272	36,298	23,285	11,775	21,350	260,980
	医 業 利 益	-13,052	-3,534	12,876	-881	2,525	-2,065
	本 部 配 賦 額	0	0	0	0	0	0
	事 業 利 益	-13,052	-3,534	12,876	-881	2,525	-2,065
医 業 外 収 益	受 取 利 息 配 当 金	0	0	0	0	0	0
	有 価 証 券 売 却 益	0	0	0	0	0	0
	患 者 外 給 食 収 益	0	0	0	0	0	0
	補 助 金 ・ 負 担 金	0	0	0	0	0	0
	そ の 他 の 医 業 外 収 益	12	834	20	0	0	866
	計	12	834	20	0	0	866
医 業 外 費 用	支 払 利 息	0	0	0	0	0	0
	有 価 証 券 売 却 損	0	0	0	0	0	0
	患 者 外 給 食 材 料 費	0	0	0	0	0	0
	診 療 費 減 免	0	0	0	0	0	0
	貸 倒 損 失	0	0	0	0	0	0
	貸 倒 引 当 金 繰 入 額	0	0	0	0	0	0
	資 産 に 係 る 控 除 対 象 外 消 費 税 等	0	0	0	0	0	0
	繰 延 消 費 税 等 償 却	0	0	0	0	0	0
そ の 他 医 業 外 費 用	0	0	0	0	0	0	
	計	0	0	0	0	0	0
	経 常 利 益	-13,040	-2,700	12,896	-881	2,525	-1,199
特 別 利 益	固 定 資 産 売 却 益	0	0	0	0	0	0
	施 設 設 備 補 助 金 等 収 入	0	0	0	0	0	0
	そ の 他 の 特 別 利 益	0	0	0	0	0	0
	特 別 利 益	0	0	0	0	0	0
特 別 損 失	固 定 資 産 廃 棄 売 却 損	0	0	0	0	0	0
	施 設 設 備 補 助 金 等 積 立 金 繰 入 額	0	0	0	0	0	0
	有 価 証 券 評 価 損	0	0	0	0	0	0
	そ の 他 の 特 別 損 失	0	0	0	0	0	0
	特 別 損 失	0	0	0	0	0	0
	税 引 前 当 期 純 利 益	-13,040	-2,700	12,896	-881	2,525	-1,199
	法 人 税 ・ 住 民 税 及 び 事 業 税 負 担 額	0	0	0	0	0	0
	税 金 等 調 整 額	0	0	0	0	0	0
	当 期 純 利 益	-13,040	-2,700	12,896	-881	2,525	-1,199

医業費用内訳

		診療所	訪問看護	リハビリ事業	地域リハ 拠点事業	施設管理	合計
給与費	給料	110,918	25,217	14,896	7,095	0	158,126
	賞与	14,649	2,720	1,281	1,004	0	19,653
	賞与引当金繰入	0	0	0	0	0	0
	退職給付費用	1,264	298	179	134	0	1,875
	法定福利費	18,046	3,503	1,384	1,204	0	24,137
	計	144,876	31,738	17,739	9,438	0	203,791
材料費	医薬品費	94	4	0	0	0	98
	診療材料費	465	0	237	0	0	702
	医療消耗器具備品費	5	0	13	0	0	18
	給食用材料費	0	0	0	0	0	0
	計	564	4	251	0	0	818
委託費	検査委託費	0	0	0	0	0	0
	給食委託費	0	0	0	0	0	0
	寝具委託費	0	0	0	0	0	0
	医事委託費	0	0	0	0	0	0
	清掃委託費	0	0	0	0	6,998	6,998
	保守委託費	309	0	0	0	101	410
その他委託費	1,353	151	184	259	12,442	14,389	
	計	1,662	151	184	259	19,541	21,798
設備関係費	減価償却費	977	1,528	114	0	0	2,618
	機器賃借料	0	0	0	0	0	0
	地代家賃	5,789	335	0	0	0	6,124
	修繕費	439	0	338	20	0	798
	固定資産税等	11	0	7	0	0	18
	機器保守費	1,944	324	248	0	0	2,516
	機器設備保険料	0	0	0	0	0	0
	車両関係係費	3,277	678	37	2	0	3,994
	計	12,438	2,865	744	22	0	16,068
研究費	研究費	0	0	0	0	0	0
	研修費	509	29	81	458	0	1,076
	計	509	29	81	458	0	1,076
経費	福利厚生費	128	12	102	3	0	245
	募集採用費	2	0	0	0	0	2
	旅費交通費	22	35	1	1	0	60
	職員被服費	2,428	283	243	73	0	3,026
	通信費	955	390	411	163	0	1,919
	広告宣伝費	0	0	0	190	0	190
	消耗品費	1,302	493	644	369	209	3,018
	消耗器具備品費	231	19	38	4	0	293
	図書費	233	8	0	0	0	242
	会議費	5	0	-5	0	0	0
	水道光熱費	1,703	193	0	0	0	1,896
	賃借料	118	0	39	0	0	156
	保険料	194	16	83	0	0	293
	交際費	0	0	0	0	0	0
	諸会費	314	20	0	0	0	334
	租税公課	-82	9	2,724	794	1,600	5,044
	貸倒損失	0	0	0	0	0	0
	貸倒引当金繰入	0	0	0	0	0	0
	支払手数料	377	3	6	1	0	387
寄付金	0	0	0	0	0	0	
雑費	294	29	0	0	0	323	
	計	8,223	1,511	4,287	1,598	1,809	17,428
		0	0	0	0	0	0
	合計	168,272	36,298	23,285	11,775	21,350	260,980

IV 中期目標の達成状況及び中期行動計画の実施状況報告

1. 利用者及びその家族に対して提供するサービスに関する事項

I 外来患者について

目標1 利用者アンケートによる患者満足度

平成29年度目標：

1. 外来患者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」のみの割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただけましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
 - ③待ち時間についてご満足いただけましたか。
2. 外来患者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

平成29年度実績：

1. 外来患者へのアンケート①から③の満足度
 - ①リハビリテーションの質・技術について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 81.3 %
「満足」のみの割合 : 43.8 %
 - ②職員の対応について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 93.8 %
「満足」のみの割合 : 87.5 %
 - ③待ち時間について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 100.0 %
「満足」のみの割合 : 68.8 %
2. 外来患者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 100.0 %
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 100.0 %

目標達成に対する活動状況について

- ①職員の対応に関する事項の満足度の向上
サービス向上委員会を設置し、輝生会接遇推進本部立会いのもとセンター内ラウンドを月一回実施した。委員会では平成29年度の接遇目標を作成し、全体会議にて周知した他、接遇の達成度を振り返った。

また、前年に引き続き、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇について各職員から発表を行うなどして、意識付けを行った。

② 待合室に関するサービスの向上

外来の待合室については、受付のレイアウト変更をし来院する患者・利用者の様子を確認し易いよう工夫をし、患者、利用者の待ち時間に対する負担軽減に取り組んだ。

③ 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

④ リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

⑤ 御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

平成29年度の実績に基づく今後の改善点について

外来患者への満足度調査においては、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上となり目標を達成した。しかしながら「満足」のみの割合については、リハビリテーションの質・技術において目標である60%に対し、43.8%となり目標を下回った。目標を下回った要因としては、外来リハビリの頻度やスケジュールに関する要望があった。現在、個別リハビリの内容については、十分な説明と同意のもと取り組んでいるが、今後、より丁寧な説明を心掛けたい。

リハビリテーションの提供に当たっては、身体機能・日常生活動作において「良くなる」と「現状が維持できる」の割合が身体機能の変化が100.0%、日常生活動作が100.0%で目標（85%以上）を達成した。これらのことから、効果的な質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

平成30年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

II 通所リハビリ利用者について

目標2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

平成29年度目標：

平成29年4月から平成30年3月において指定通所リハビリテーションの提供を終了した者のうち、リハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施した者の占める割合が100分の5以上とする。

平成29年度実績：

① 平成29年4月から平成30年3月の評価対象期間における通所リハビリテーション終了者数：53名

② ①のうちリハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施し、リハビリの提供を終了した利用者数：13名

※通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防・日常生活支援総合事業における通所事業や一般介護予防事業、また、居宅における家庭での役割を担うことができ通所リハビリテーションを終了した数。

内訳)

・目標達成 11名

リハビリを開始するにあたっての目標と達成事例

開始目標	終了時の達成状況
公共交通機関の利用や近所への買い物ができる	自宅でも前後進の練習を継続していることもあり、ステップがスムーズに実施可能となった。
・定期的外出が継続できる ・外出する機会が見つけられる	歩こう会にて筋力をつけたり足を上げて歩くことで歩行に自信をつけて外出できるようになった
屋外での歩行が安定する	ティップネスへ通うこととなったと報告あり。
友人と外出ができる	以前と比較し外出機会も範囲も拡大みられていることを本人と共有。本人も徐々に歩けるようになっている実感があり、足を摺らずに歩ける事を意識できるようになってきた。
撮影のための外出が継続できる	外出を継続でき、自主トレーニングも定着して自己管理できてきており、目標達成。介護保険の認定期間も8月で終了。更新はせず。今後はご自身にて運動できる場へ足を運んだり、自主トレーニングで身体機能は維持可能である見込み
・一人での外出(車の乗降含む)が安	・自主トレを毎日続けている。スク

全に継続できる ・歩行能力が維持できる ・奥様との屋外歩行が継続できる	ワットも以前に比べ麻痺側荷重が得られるようになっている。タクシーを利用しての外出が自立し、当初の長期目標が達成に至った
・家事動作が安全に毎日継続できる ・プールに通うことができる ・買い物が継続して行ける	現状の買い物や家事動作と自宅内での自主トレを継続することで身体機能は維持が可能となった

・通所介護への移行 2名

③ ①に占める②の割合：24.5%

目標達成に対する活動状況について

- ①介護報酬制度によるリハビリテーションマネジメントに基づき（平成27年3月27日 老老発0327 第3号 リハビリテーションマネジメント加算等に関する基本的な考え方並びにリハビリテーション計画書等の事務処理手順及び様式例の提示について）通所リハビリテーションを利用する利用者全てにリハビリテーション計画書を作成し、利用者の健康状況、心身機能、活動の参加状況を計画書に記録した。
- ②社会参加へ移行ができるよう利用者のリハビリテーション計画を基に、リハビリテーションを提供することで、利用者の日常生活動作（ADL）と外出や買い物等の手段的生活動作（IADL）が向上し、社会参加に資する他のサービス等に移行できるなど、質の高いリハビリテーションを提供した。
- ③リハビリを担当する職員が、終了した利用者に対して、その居宅を訪問し、リハビリテーション計画書の項目を活用しながら、リハビリテーションの提供を終了した時と比較して、ADLとIADLが維持又は改善していることを確認した。
- ④また、居宅に訪問しADLとIADLの状況を確認することが困難な場合は、担当の介護支援専門員から居宅サービス計画の提供を依頼するなど、社会参加に資する取組の実施を確認するとともに、電話等の手段を用いて、ADLとIADLの情報を確認した。
- ⑤終了した利用者の状態の悪化又はその恐れがある場合や参加が維持されていなかった場合は、利用者及び家族に適切な助言を行い、医師又は介護支援専門員へ情報を提供した。

平成29年度の実績に基づく今後の改善点について

通所リハビリを終了した利用者において、リハビリテーションマネジメントの目標を達成した割合は24.5%となり、目標（5%以上）を達成した。質の高いリハビリテーションを提供し利用者のADLとIADLについて維持・向上できたことが裏付けられる。

平成30年度も同様に取り組んでいく。

目標3 介護職員の総数のうち、介護福祉士の占める割合100分の50以上

平成29年度目標：

介護職員の総数のうち、介護福祉士の占める割合を100分の50以上とする。

平成29年度実績：

介護福祉士の占める割合：100%

(全体の介護職員数3人　うち介護福祉士3人)

目標達成に対する活動状況について

- ①中重度の要介護者や認知症高齢者に対応できるケア体制を確保した。
- ②法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、無駄のない配置に努めた。

平成29年度の実績に基づく今後の改善点について

介護ニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、介護職員の安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。結果、介護福祉士の占める割合は100%の実績であり、非常に質の高い介護サービスが提供できたと言える。

平成30年度も引き続き、在宅生活を支援するため介護サービスの充実を図る。

目標4 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上

平成29年度目標：

利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上のスタッフが占める割合を100分の30以上とする。

平成29年度実績：

勤続年数3年以上の者の占める割合：87.0%

(全体の職員数23人　うち勤続年数3年以上の職員数20人)

経験年数	人数
3年未満	3人
3～5年	9人
5～10年	10人
10年以上	1人

目標達成に対する活動状況について

①法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、回復期リハビリテーション病棟で法人の理念や、基礎的なリハビリテーション技術を取得した職員を配置することに努めた。

平成29年度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリテーションニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、リハビリスタッフの安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。結果、直接従事する職員のうち勤続年数3年以上の占める割合は87.0%の実績となり、一定以上の質が保たれた介護サービスが提供できたと言える。

平成30年度も引き続き、在宅生活を支援するための介護サービスの充実を図る。

目標5 利用者アンケートによる患者満足度

平成29年度目標：

1. 通所リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」のみの割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただけましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
 - ③通所リハビリのスケジュールについてご満足いただけましたか。
2. 通所リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

平成29年度実績：

1. 通所リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度
 - ①個別リハビリテーションについて
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 89.4 %
「満足」のみの割合 : 63.6 %
 - ②職員の対応について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 92.4 %
「満足」のみの割合 : 68.2 %
 - ③通所リハビリのスケジュールについて
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 80.8 %
「満足」のみの割合 : 54.0 %
2. 通所リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 94.0 %
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 92.4 %

目標達成に対する活動状況について

- ①職員の対応に関する事項の満足度の向上
サービス向上委員会を設置し、輝生会接遇推進本部立会いのもとセンター内ラウンドを月一回実施した。委員会では平成29年度の接遇目標を作成し、全体会議にて周知した他、接遇の達成度を振り返りにより実施した。また、前年に引き続き、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇について各職員から発表を行うなどして、意識付けを行った。
- ②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上
患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づき、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個

個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

④御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

平成29年度の実績に基づく今後の改善点について

通所リハビリ利用者への満足度調査（平成29年度目標①～③）においては、「満足」と「やや満足」を足した割合が80%以上となり目標を達成した。

また「満足」のみの割合においても目標（60%以上）を達成した。

リハビリテーションの提供に当たっては、身体機能・日常生活動作において「良くなる」と「現状が維持できる」の割合が身体機能は94.0%、日常生活動作は92.4%で目標（85%以上）を達成した。効果的で質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

平成30年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

Ⅲ 訪問リハビリ利用者について

目標6 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

平成29年度目標：

平成29年4月から平成30年3月において指定訪問リハビリテーションの提供を終了した者のうち、リハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施した者の占める割合が100分の5以上とする。

平成29年度実績：

① 平成29年4月から平成30年3月の評価対象期間における指定訪問リハビリテーション終了者数：62名

② ①のうちリハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施し、リハビリの提供を終了した利用者数：15名

※通所リハビリテーション、通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防・日常生活支援総合事業における通所事業や一般介護予防事業、また、居宅における家庭での役割を担うことができ、訪問リハビリテーションを終了した数。

内訳)

・目標達成 8名

リハビリを開始するにあたっての目標と達成事例

開始目標	終了時の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・バスや電車が安全に利用できる ・バスに乗って東武に買物へ行ける 	<p>デイサービスは週2回継続して利用し、ご自身のみで外出できるようになる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・左手で物の把持ができる。 ・畑作業が継続できる 	<p>・目標達成（畑作業再開）し終了。</p>
<p>安全に移乗できる</p>	<p>伝い歩きにて自室内の移動は安定。以前はタンスとベッドの間が広く、そこを移動する際に転倒したが、現在はベッドサイドに椅子を設置しており、上手く移動できるようになった</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・屋外連続歩行距離延長 ・運動習慣の確立 	<p>下肢筋力・耐久性共に向上、歩行で通所リハビリに通えるようになった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・転倒せずに生活できる ・定期的に家事を実施できる(食器洗い) ・息子様との外出が継続できる 	<p>週末の外出は継続して実施できている。家事動作は継続して実施され、更衣は時間を要するため夫の介助にて実施していることが多い。</p>
<p>食堂まで歩行で行けるようになる。</p>	<p>自室から1F食堂ソファまで手つなぎにて移動。本人の不安感からの手つ</p>

	なぎであり歩行介助の介入なし。EVボタンや扉の開閉操作等の一連の動作も自身で可能。
<ul style="list-style-type: none"> ・家事動作が楽に行えるようになる ・ウェルシアまで歩いて買い物に行くことができる 	毎日外には出ており、近所のクリーニング屋や郵便局、友人の家、酒屋など外出機会を積極的に作るようになった。家事では、洗濯、掃除、調理は毎日。ゴミ捨ては週3回。慎重に行っているため問題は今の所ない。

・通所リハビリへ移行 7名

③ ①に占める②の割合：24.2%

目標達成に対する活動状況について

- ①介護報酬制度によるリハビリテーションマネジメントに基づき（平成27年3月27日 老老発0327 第3号 リハビリテーションマネジメント加算等に関する基本的な考え方並びにリハビリテーション計画書等の事務処理手順及び様式例の提示について）訪問リハビリテーションを利用する利用者全てにリハビリテーション計画書を作成し、利用者の健康状況、心身機能、活動の参加状況を計画書に記録した。
- ②社会参加へ移行ができるよう利用者のリハビリテーション計画を基に、リハビリテーションを提供することで、利用者のADLとIADLが向上し、社会参加に資する他のサービス等に移行できるなど、質の高いリハビリテーションを提供した。
- ③リハビリを担当する職員が、終了した利用者に対して、その居宅を訪問し、リハビリテーション計画書の項目を活用しながら、リハビリテーションの提供を終了した時と比較して、ADLとIADLが維持又は改善していることを確認した。
- ④また、居宅に訪問しADLとIADLの状況を確認することが困難な場合は、担当の介護支援専門員から居宅サービス計画の提供を依頼するなど、社会参加に資する取組の実施を確認するとともに、電話等の手段を用いて、ADLとIADLの情報を確認した。
- ⑤終了した利用者の状態の悪化又はその恐れがある場合や参加が維持されていなかった場合は、利用者及び家族に適切な助言を行い、医師又は介護支援専門員へ情報を提供した。

平成29度の実績に基づく今後の改善点について

訪問リハビリを終了した利用者において、リハビリテーションマネジメントの目標を達成した割合は24.2%と、目標（5%以上）を達成した。質の高いリハビリテーションを提供し、利用者のADLとIADLについて維持・向上できたことが裏付けられる。

平成30年度も平成29年度と同様に取り組んでいく。

目標7 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上

平成29年度目標：

利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合を100分の30以上とする。

平成29年度実績：

理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合：83.3%

全体の職員数	理学療法士	10人	(うち勤続年数3年以上の者)	8人
	作業療法士	6人	(うち勤続年数3年以上の者)	6人
	言語聴覚士	2人	(うち勤続年数3年以上の者)	1人

目標達成に対する活動状況について

①法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、回復期リハビリテーション病棟で法人の理念や、基礎的なリハビリテーション技術を取得した職員を配置することに努めた。

平成29年度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリテーションニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、リハビリスタッフの安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。結果、直接従事する職員のうち勤続年数3年以上の占める割合は83.3%の実績であり、一定以上の質が保たれたサービスが提供できたと言える。

平成30年度も引き続き、在宅生活を支援するためのサービスの充実を図る。

目標8 利用者アンケートによる患者満足度

平成29年度目標：

1. 訪問リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただけましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
 - ③訪問のスケジュールについてご満足いただけましたか。
2. 訪問リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が75%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

平成29年度実績：

1. 訪問リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度
 - ①リハビリテーションの質・技術について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 89.9 %
「満足」のみの割合 : 77.2 %
 - ②職員の対応について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 92.4 %
「満足」のみの割合 : 82.3 %
 - ③訪問リハビリのスケジュールについて
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 88.6 %
「満足」のみの割合 : 75.9 %
2. 訪問リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 90.1 %
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 92.4 %

目標達成に対する活動状況について

- ①職員の対応に関する事項の満足度の向上
法人の教育研修局が基軸となり、訪問リハビリに従事する全職員に対し、訪問療法士としての姿勢・態度、利用者・家族の生活の視点、情報収集・説明責任、訪問リハビリの基本的視点、リスク管理、多職種協同の具現化などについて指導を行った。また、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇について各職員から発表を行うなどして、意識付けを行った。
- ②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上
患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基

づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

④満足度調査の結果だけでなく、訪問時に利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

平成29年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問リハビリ利用者への満足度調査①から③において、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上と非常に高い割合を示し、目標を達成した。また「満足」のみの割合については、60%以上で目標は達成された。リハビリテーションの提供に当たっては、身体機能・日常生活動作において「良くなる」と「現状が維持できる」の割合が身体機能は90.1%、日常生活動作は92.4%で目標（75%以上）を達成した。効果的で質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

平成30年度もさらなる満足度の維持・向上を目指し取り組んでいく。

IV 訪問看護利用者について

目標9 利用者アンケートによる患者満足度

平成29年度目標：

訪問看護利用者へのアンケート項目の内、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。

平成29年度実績：

①訪問看護について

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 88.2 %
「満足」のみ割合 : 82.4 %

②職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 94.1 %
「満足」のみ割合 : 82.4 %

③訪問のスケジュールについて

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 97.1 %
「満足」のみ割合 : 85.3 %

目標達成に対する活動状況について

①職員の対応に関する事項の満足度の向上

適宜、訪問看護ステーションの所長が職員の訪問に帯同し、訪問看護の内容や接遇を把握し指導を行った。また、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇について各職員から発表を行うなどして、意識付けを行った。

②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③訪問看護の提供に当たっては、職員の知識・技術向上研修等で満足度の向上を目指した。また、利用者ごとに毎月発行する訪問看護計画・報告書を訪問看護ステーション所長が全例を確認し、職員の技術向上を図った。

平成29年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問看護利用者への満足度調査①③において、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」のみの割合についても60%以上となり、非常に高い割合をもって目標を達成することができた。

また、訪問看護職員の採用に苦慮する中、訪問スケジュール調整においても、利用者の便宜を図った結果、高い満足度を得ることができた。

平成30年度も引き続き平成29年度と同様の活動を行い、更なる患者満足度の向上を図る。

V リハビリ事業利用者について

目標10 利用者アンケートによる患者満足度

平成29年度目標：

リハビリ事業利用者へのアンケート項目の内、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。

平成29年度実績：

①職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 98.4 %
「満足」のみの割合 : 87.2 %

②パワーリハビリについて

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 95.3 %
「満足」のみの割合 : 62.8 %

③プールリハビリについて

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 86.5 %
「満足」のみの割合 : 67.6 %

目標達成に対する活動状況について

①職員の対応に関する事項の満足度の向上

②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

職員の対応については目標5「外来患者・通所リハビリ・訪問リハビリ患者または利用者満足度」の活動状況に記載したとおり接遇研修を実施し、スタッフの接遇レベル向上を図った。

また、患者・利用者のプライバシーへの配慮についても、上記目標5と同様な対応をとり満足度の向上を図った。

③待ち時間に対する満足度の向上

利用者が増加したことにより、定員を超えて事業を実施する日が生じたことから、施設管理上の安全面に支障をきたす状況が予想されたため、船橋市と協議し、利用者に対し平成28年1月から1人週1回を上限とした利用回数の制限したが、平成28年度よりリハビリ事業管理者を設置。平成28年6月よりパワーリハビリフォロー利用枠を2枠増加することで利用者への制限を緩和した。さらに、平成29年度からは予約システムを導入。これにより、利用定員を定め、安全に各種マシンを利用することが実現した。

④御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

平成29年度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリ事業の満足度調査においては、「満足」と「やや満足」を足した割合のいずれも80%以上となり目標を達成した。パワーリハビリ・プールリハビリにおける満足のみ割合においては、パワーリハビリが62.8%（前年比+8.5%）、プールリハビリが67.6%（前年比+5.3%）といずれも前年比増加した。

これは利用者増加により施設の安全性の確保を行う目的で、平成28年度に管理スタッフを増員し利用枠を増加したことや、予約システムを導入したことで利用がし易くなったことが満足度が増加した要因であると考えられる。

平成30年度においても、平成29年度同様に患者満足度の維持・向上を図る。

2. 財務内容の改善に関する事項

目標11 診療所部門 経常収支比率

平成29年度目標： 診療所経常収支比率 100%以上

平成29年度実績： 診療所経常収支比率 92.3%

※各部門の指定管理料を除いた収入の合計を各部門の支出の合計で除して100を乗じて算出した割合で算出。

目標達成に対する活動状況について

①増患対策

- ・ 外来リハビリ件数（紹介件数）の増加対策として、船橋市リハビリセンタークリニック外来案内を急性期病院へ定期的な訪問を実施した。
- ・ 外来リハビリ患者の増加を目指し、回復期病棟を持つ近隣医療機関へ紹介を行った。また、同一医療法人である船橋市立リハビリテーション病院を退院し外来リハビリへ移行する対象者のフローを見直し、センターの空き枠情報を共有することでリハビリテーションのシームレスな連携を図った。
- ・ 通所リハビリ、訪問リハビリ利用者の増加を目指し、サービスエリア内の居宅介護支援事業所へ出向き情報交換を実施した。
- ・ 実際に行うリハビリの単位実績を把握する他、利用の増加を予測した予測推計を更新することで、リハビリテーションサービスの供給量の適正に努めた。
- ・ センター機関誌を有効活用し、地域・医師会・居宅介護支援事業所・在宅へセンターの情報発信を実施した。
- ・ ケアマネジャーむけ交流会を実施
「フィジカルアセスメント・利用者の健康状態について観察のポイントについて」を実施した。

②費用の削減

- ・ 患者・利用者の増加時にスムーズな人員配置が出来るよう、法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、できる限り無駄のない配置に努めた。

平成29年度の実績に基づく今後の改善点について

※外来患者述べ件数

平成30年3月実績 687件（前年同月対比 +285件）

※通所リハビリ延べ件数

平成30年3月実績 986件（前年同月対比 +19件）

※訪問リハビリ延べ件数

平成30年3月実績 945件（前年同月対比 +261件）

診療所の稼働状況は着実に増加傾向にある。通所リハビリに関しては、訓練スペースの問題から定数を維持する運営とし、訪問リハビリの新規依頼が顕著であることから、利用者拡大の施策を図った。

医業収益は155,220千円、医業費用は168,272千円。医業利益は-13,052千円。経常利益としては-13,040千円。平成29年度診療所経常収支比率においては92.3%の実績となる。

平成30年度においては、平成29年度に取組んだ増患対策を継続する他、平成30年度診療報酬・介護報酬改定により予測される医療リハビリから介護サービスへのさらなる移行促進と、介護保険サービスにおけるリハビリテーションマネジメントの充実に向け、リハビスタッフの2名増員による増患を図る。また、診療所の土曜日運営に関しては、現行の訪問リハビリ（介護保険）の運営を維持し、経常収支比率100%以上を計画する。

目標12 財務内容の改善に関する事項

平成29年度目標： 訪問看護経常収支比率 100%以上

平成29年度実績： 訪問看護経常収支比率 90.3%

※各部門の指定管理料を除いた収入の合計を各部門の支出の合計で除して100を乗じて算出した割合で算出。

目標達成に対する活動状況について

①増患対策

- ・同一医療法人である船橋市立リハビリテーション病院を退院し訪問看護へ移行する対象者のフローを作成し、回復期リハビリテーション病棟を退院する患者のシームレスな連携を図った。
また、移行した患者のフィードバックを定期的を実施し、訪問看護導入のメリットを共有した。
- ・サービスエリア内の居宅介護支援事業所へ出向き情報交換を実施した。
- ・ケアマネジャーむけ交流会を実施
「フィジカルアセスメント・利用者の健康状態について観察のポイントについて」を実施した。

②費用の削減

- ・計画的に人員配置を行うため、患者・利用者の増加時にスムーズな人員配置が出来るよう、法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、できる限り無駄のない配置に努めた。

平成29年度の実績に基づく今後の改善点について

※訪問看護延べ件数

平成30年3月実績 327件（前年同月対比 +128件）

訪問看護実績に関しては、着実に増加傾向を示した。

医業収益は32,764千円、医業費用は36,298千円。医業利益は-3,534千円。経常利益としては-2,700千円。平成29年度診療所経常収支比率においては90.3%の実績となる。

平成30年度においては、さらに利用者の増加を図ることを計画し、経常収支比率100%以上を目標とする。

3. その他管理に関する重要事項

目標13 毎年度実施計画を立て地域リハビリテーション拠点事業を行う

平成29年度目標：

地域リハビリテーション拠点事業に定めた事業内容を最低限行うこと。

平成29年度実績： 目標に対し全て達成した

目標達成に対する活動状況について

- | | |
|---|-------|
| ①リハビリセンターパンフレット作成 | 1回/年 |
| ②地域リハビリ推進用リーフレットの作成、配布 | 2回/年 |
| ③リハビリセンター刊行物の作成、配布 | 4回/年 |
| ④ホームページに最新情報を掲載 | 30回/年 |
| ⑤市民向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑥市民向け研修会開催 | 2回/年 |
| ⑦リハビリ関係者向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑧リハビリ関係者向け研修会開催 | 15回/年 |
| ⑨維持期リハビリの実態と潜在的なニーズの調査研究報告 | 3回/年 |
| ⑩船橋市地域リハビリテーション協議会、ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会等のメンバーと積極的に連携を行う。 | |
| ⑪リハビリセンター内にリハビリ相談窓口を設置し、総合相談を行う。 | |

(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)

平成29年度の実績に基づく今後の改善点について

【資料9】地域リハビリテーション拠点事業アンケートに示すとおり、研修会の内容について5段階でアンケートを実施したところ、全アンケートの平均として「①とても良い」60%、「②良い」36%という結果となり、全体の「とても良い」と「良い」の割合が96%と高い満足度を得られた。

平成30年度も、以下の項目を継続して実施するとともに、高い満足度を得られるよう努力する。

- | | |
|---|------|
| ①リハビリセンターパンフレットの更新 | 1回/年 |
| ②地域リハビリ推進用リーフレットの作成、配布 | 2回/年 |
| ③リハビリセンター刊行物の作成、配布 | 4回/年 |
| ④ホームページに最新情報を掲載 | 2回/年 |
| ⑤市民向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑥市民向け研修会開催 | 2回/年 |
| ⑦リハビリ関係者向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑧リハビリ関係者向け研修会開催 | 3回/年 |
| ⑨維持期リハビリの実態と潜在的なニーズの調査研究報告 | 2回/年 |
| ⑩船橋市地域リハビリテーション協議会、ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会等のメンバーと積極的に連携を行う。 | |
| ⑪リハビリセンター内にリハビリ相談窓口を設置し、総合相談を行う。 | |